



大井町立相和小学校

学校通信

そつわ通信 6月号

発行日
令和元年6月21日

発行者
中山 喜幸

運動会テーマ：限界突破！ きらめく笑顔 絆を深める運動会

5月25日(土)は清々しい青空のもと、たくさんの来賓・保護者のみなさまをお迎えして、運動会を行うことができました。

1・2年生の表現「パプリカ☆」は、色とりどりのTシャツを着て楽しい音楽にのって、生き生きとしたダンスを披露しました。1・2年生のかわいらしいダンスは、見ている人を楽しく、そして幸せな気持ちにさせてくれました。

3・4年生の表現「荒馬2019」は、リズムカルな太鼓などの和楽器の生演奏で、元気なかけ声とともに、力強い踊りを披露しました。その姿は、正に「荒馬」、大地を踏みならして乱舞する躍動感ある表現となりました。生きていることの喜びがあふれている様子を連想することができました。

そして、5・6年生の「創造～新しい時代へ 組立体操～」では、みんなの力と心をあわせた真剣な表情には心うたれました。これまで、なかなかうまくいかなかったり、安定しなかったりする技もありましたが、見事に安定感があり、凛々しく美しい表現を披露することができました。

また、ふれあい種目の「すずわり」「ボール送り」「麦打唄」では、たくさんの地域・保護者・卒業生のみなさんに御協力いただき、楽しいふれあいの場となりました。PTAの代表の方々に出場していただいた特別種目「大玉運びリレー」「綱引き」では、応援席のテント内で子どもたちは「〇〇さんのお父さん、□□さんのお母さん、がんばれえ！」と楽しく応援していました。この時間は、子どもたちの休憩の時間にもなっています。御協力ありがとうございました。

最後まで子どもたちに声援を送ってくださった保護者の方々、運動会が終わると、5・6年生が行う入退場門、テーブル・机などの片付けを手伝っていただきました。ありがとうございました。



1・2年「パプリカ☆」



「荒馬2019」



「創造～新しい時代へ 組立体操～」

運動会当日のテント張りの風景 ～「わ」の実践～

運動会当日の早朝7時、各地区のテントが校庭に搬入され地区代表の方々方がテントを組み立て始めました。そこで相和ならではのよさを感じました。地区を越えて協力する姿です。この姿は、6月朝会で子どもたちに次のように紹介しました。「全体を見回して手助けできるところに向かう姿。素敵ですね。」



開会式 学校長の話から（概略）

運動会のテーマは、「限界突破！ きらめく笑顔 絆を深める運動会」です。また、今年度の児童会のテーマは、「ふしぎ発見！笑顔 きらめく 相和っ子」です。この二つのテーマに共通するのは、「笑顔」と「きらめく」という言葉です。「笑顔」は嬉しい・楽しいときの表情です。「きらめく」とは、「きらきらと光かがやく」という意味です。

みなさんが、「きらきらと光り輝く」、それはどんなときでしょう？

- なかまと目標達成のために、力をあわせているとき
- 友達のがんばりを 精一杯応援しているとき

それだけではありません。

- どんなに一生懸命走っても、なかなか前の人に追いつかない、それでも、自分の力を出しきってゴールを駆け抜ける。

これは「とびきりのきらめき」だと、わたしは思います。今日の運動会では、みんなのとびきりの「きらめく」姿をたくさん見られることを楽しみにしています。

“サツマイモ作り” ～ 相和っ子班活動 ～

畝づくり・マルチ（5・6年生）

5月31日（金）昼休みから5校時にかけて、5・6年生がサツマイモの畝づくりをしました。毎年お借りしている畑は、もう既に地域のボランティアの方が耕運機で耕してくれてありました。また、畝づくりにあたって、何年も苗を提供してくださっているおばあちゃんからは、畝の下に米ぬかを入れておくとのアドバイスをいただきました。

畝を作るめやすになるようテープを張りましたが、まっすぐの畝にするには苦勞しているようでした。それでも6年生は昨年度の経験を生かし、5年生と協力し畝づくりをしていました。

苗植え（全校児童）

週明けの月曜日、6月3日朝の時間から1時間目にかけて、全校でサツマイモの苗植えをしました。環境委員会から苗の植え方についての説明があり、一斉に苗植えをしました。

1年生が苗植えをしているところをそばで見守る6年生は、1年生が自分で植えることを大切にしていました。あまり助けすぎず、それでいて困らないように、優しくリードしていました。そうした6年生も、かつては1年生でした。毎年、同じような行事を繰り返してはいますが、子ども自身は立場が変わり少しずつ成長している姿が見られます。



雨の日の登校風景 ～ 昇降口に入る前のマナー ～

雨降りの朝、学校に到着した子どもたちで昇降口がちょっとした混雑になります。昇降口前のひさしでぐるりと反転して、傘をパンパンとさせ水をきります。当然、近くにいる友達に水がかからないように気をつけます。手荷物を持っている下学年がいると、持ってあげる高学年もいます。

これは、子どもから子どもへと伝わっている雨降りの時に校舎内に入るときのマナーになっています。「こうすべきだ」と言い伝えるのではなく、自然と行っている行動が代々の相和っ子伝わっています。

